

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500392		
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会		
事業所名	グループホーム 第二こすもす	(ユニット名	1階)
所在地	福岡県大川市大字津390-9		
自己評価作成日	平成23年9月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流に力を入れており地域の方が気軽に行き来出来る雰囲気作りに努めている。地域密着型で毎月ふれあい交流会は2年継続している。近くの幼稚園との交流やボランティアの訪問等があり地域の行事にも積極的に参加し、グループホームの行事にも参加して頂けるよう努めている。ご利用者の笑顔も多く言いたい事が言える雰囲気である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年10月1日

平成15年に開設され、お互いに言いたい事が言える元気な利用者と穏やかに優しい声かけをする職員とが共に過ごすホームとなっている。2ヶ月に1度、話し相手ボランティアを招いたり、スライドを見ながらバスガイドが案内をしてホームに居ながらバス旅行が楽しめるような企画をしたりと、利用者の笑顔が沢山見られるようイベントのアイデアが工夫されている。ホームは家具工場に囲まれているが、アイデア製作の材料となる木材の提供をしてもらったり、自宅で出来た花を頂いたり自然な近所付き合いが出来ている。また、ホームで料理教室を行い、おやつ作りは恒例となっている。近隣の幼稚園との交流もありクリスマス会に参加したりと地域の方と共に生活を楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に、「家庭的な環境と地域住民との交流の元で、ご利用者が自分らしく生活することができるように、支援します」と掲げており、全職員が集まる会議で再確認し、ケアにつなげるよう努めている。	法人理念の「敬愛」を念頭に、職員で考えた「やすらぎと喜びのある毎日」をホーム独自の理念としている。管理者と全職員は理念を共有しケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、地元の人々との交流に努めている。	近隣の幼稚園からの慰問やボランティアの参加がある。また、近所の方からミカンやシソの葉をもらったり、立ち寄って頂く等、自然なお付き合いが出来ている。隣の工場では、作品作りの土台となる材料を廃材になった木で造ってもらう等の協力も得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関連施設と合同で、地域の人々を対象に介護教室を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議に行政や地域の方に参加して頂き、当ホームの現状を包み隠さず公表し、困難事例等の検討を行い、サービス向上に活かしている。	大川市役所職員、地域代表、法人理事長、家族代表、ホーム管理者等の参加の下、事故・ヒヤリハット、活動・研修報告、入居者の状況報告等を行っている。また、暴言・暴力のある方への対応や服薬管理について誤薬防止の助言をもらう等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回、市町村から依頼された介護相談員にグループホームの雰囲気や現状を見て頂き、必要時は相談し、助言を頂いている。グループホーム内での事故発生の際は、市町村に出向き、報告している。	市役所より制度についての説明を依頼され公民館で講義を実施した。2ヶ月に1度、市役所から依頼された相談員の訪問があり顔なじみになっているため相談しやすい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を数回行い、職員全員に知識を浸透させている。	法人全体で月に1~2回、管理者参加で勉強会を実施している中で身体拘束についての研修が組み込まれている。管理者はホームに持ち帰り伝達研修を行っている。職員は身体拘束をしないケアについて理解しているが、2階のドアは階段からの転倒防止のため常時施錠がされている。	夜間や入浴介助中等、見守りが難しくなる時間帯は施錠が必要となるが、日中はドアに音が鳴るように工夫する等、出来るだけ施錠しないケアの取り組みについて、今一度、検討する機会を持つことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等で取り上げられた問題について、皆に注意を呼び掛けている。虐待に関しては、身体拘束等の内容を勉強会で取り上げて、職員間の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の事情を職員全員が把握し、擁護している。 法人全体の勉強会やグループホーム会議の際に勉強会を行い、理解を深めている。	職員は年に1度、法人内での研修で制度について学んでいる。現在、制度が必要な利用者はいないが、必要と思われる時は、それらを説明し支援できる体制が出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には契約内容に沿って説明をし、家族の状況や不安を尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、毎日の生活の中で意見を聞き、不満や苦情がないか確認している。 家族には、面会時や電話連絡時に要望や意見を聞くように心がけている。	家族と管理者、職員は話しやすい関係づくりを心掛け、家族の訪問時や電話連絡時に要望や意見が聞ける様に努めているが、具体的な要望が出たことは無い。2ヶ月に1度、市役所から依頼された生活相談員の訪問を受け入れており、外部者へ意見を表せる機会をつくっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の行事担当を決めており、職員のアイデアや意見を聞きながら、行事を行っている。	外出時には、付き添いの職員の人数を増やしてもらい不安なく行事が実施出来るように提案した。また、ベッド横の床にマットを敷き利用者の転落防止の案を出す等、職員は意見を言いやすく、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が目標を定め、その実行具合に応じて代表者は評価をし、向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	経営母体である社会福祉法人が職員を採用しており、性別・年齢に制限なく、障害者も受け入れている。	職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。職員は、月に2回の希望休を取ることができ、自己実現の権利が保障され働きやすいよう配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム会議等、職員が集まる時に勉強会を行い、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	年間計画の中に人権研修としての研修は組み込まれていないが、法人、ホーム内の研修の中で、常に人権に関する勉強会を行っている。また、日常のケアの中でも管理者が気になる事があれば、その都度、職員に対し注意をしながら啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に応じた研修を受ける機会を設けている。 法人内では、定期的に合同勉強会が開催されており、職員は参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の意見交換会を行い、他のグループホームの状況や困難事例等話合う等の交流を行った。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時等、本人との関わりを多く持ち、話を傾聴する機会を作ることで、本人の要望を聞き出し、信頼関係が築けるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望等を傾聴し、できるだけ受け入れるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をよく聞き、グループホーム以外のサービスが望ましいと判断した場合は、他の事業所や関係者の紹介をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にも掃除や洗濯、食事の準備や後片付けを手伝ってもらうことで、暮らしを共にし、支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話連絡の時等に本人の状況を説明し、いい方向であれば家族と共に喜び、体調が悪かったりすると一緒に心配したりする。また、家族に本人のなじみの美容室に連れて行ってもらったり、本人の好物の差し入れをしてもらったりと、家族の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのかかりつけの病院に受診したり、美容室に出掛けたりして、馴染みの関係が継続できるようにしている。	友人や親戚の方の訪問があったり、行きつけの八百屋に買物に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。また、ホームから家族へ送る年賀状の横にコメントを書き込んでもらい思いが伝わるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室よりもホールで過ごされる方が多く、利用者の性格や相性を把握し、席を配慮することで、利用者同士が支え合える関係づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的レベル低下にて、当ホームを退所後、同法人が持つ特養に入所される事例が数件あったが、職員の異動等で、特養にも本人の顔なじみの職員がおり、安心という声をきくことがある。退所され在宅にて同法人のデイサービスを利用されている方もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時、本人の希望・意向を確認し、プランに活かせるよう努めている。また、意思伝達が困難な方の場合、本人本位に検討し、利用者の思いや意向を掴めるよう支援している。	入居時に家族や、本人に希望、意向を確認する。入居後は日常生活の係わりの中で、自然に発する言葉や表情から思いや希望を把握している。特に入浴の時は安心して思いを表出される。困難な場合は日常の活動の中での表情から本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から十分に話を聞き、これからのグループホームでの生活の中で活かせるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録等に利用者の状況を記入し、職員全員が情報を把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を決め、3ヶ月に1回ケアカンファレンスを行い、家族、本人の意見も取り入れた介護計画を作成している。	日常の気づきや変化を毎日の申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有している。また更新時は、担当者は職員から意見や情報を聞き取っている。家族からは訪問時や電話で意見を聞き、それらをもとに月1回の職員会議で検討し現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の言動や排泄状況、食事・水分摂取量などを記録し、それを日々のケアや介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空床を利用したショートステイの受け入れ体制は出来ている。 家族が利用者の居室に宿泊したいと要望があれば、支援を行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア等、随時受け入れている。消防署からは防火訓練等で指導に来て頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人及び家族に希望を聞き、望まれるかかりつけ医を受診してもらっている。また、随時医療機関との連絡をとっている。	今までのかかりつけ医を希望する方は、基本的には家族の対応で受診をお願いしている。受診時は看護師が家族へ情報を渡し、かかりつけ医へ伝えている。受診の結果は家族から報告を受けているが、必要時は看護師がかかりつけ医に電話をして確認をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の心身の状態について、日々気付いた事を職場内の看護師に報告・相談し、利用者が適切な看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院中も、お見舞いや必要に応じ、洗濯物の交換に行き、利用者の状態を見たり、病院関係者や家族との情報交換をし、早期に退院できるよう連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ実施していない。ターミナルの事例はないが、マニュアルを作り準備を行っている。	ターミナルケアについての看護体制、受け入れ態勢は出来ており、家族や本人には契約時に説明を行っている。現在までは看取りの事例はない。今後は希望があれば家族や、医師、事業所等で方針を共有しながら、支援していきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応について、勉強会等で学んでいる。 急変時の対応の仕方については、その手順を紙に大きく書き、壁に貼っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の昼夜を想定した訓練を行い、災害時に備えている。訓練時には市の職員・地域の方・消防署の協力を得ている。	運営推進会議の日に合わせ、運営推進会議参加者と共に、1年に2回昼と夜間帯を想定し消防署立会いの下で通報訓練、避難・誘導訓練、消火器取扱い訓練、防火講話を行っている。近所には空き地がなく避難場所を決めていない。	屋外への誘導後の事故を防ぐため、近所の庭の広いお宅にお願いする等、避難場所を確保しておく必要がある。また、職員間で周知しておくことも望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。 職員同士で互いの言葉かけや対応を日々チェックし、不適切な対応を目にした際には注意し合うようにしている。	居室に入る時は必ずノックをして入る。別の場所で過ごされている時は必ず、本人に訪室して良いか確認の上で入っている。言葉かけは方言でも良いので押さえついたり、慣れ合いにならないように気をつけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、利用者が希望や好みを聞き選びやすい場面作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌をうたわれる方、昼寝をされる方、テレビ観賞等その方の1日の過ごし方を尊重し支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは職員がさりげなくアドバイスをしている。理容、美容は訪問カットを利用して頂いたり本人の希望があれば本人希望の店に行けるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえや小鉢へのつぎ分けを手伝って頂いたり、味見をして頂きアドバイスをもらったりしている。 献立には利用者の希望を取り入れている。	利用者の好みや力を活かし、職員と一緒に準備や片づけを行っている(団子をこねたり、野菜の皮剥き、もやしの根切り、牛蒡のササガキ、味見、味付け、つぎ分け、テーブル拭き、下膳、茶碗拭き等)。献立は、利用者の希望も聞きながら1週間交代で職員が立て、法人の栄養士が確認している。マンネリ化防止で週に3回は新しいメニューを入れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確保が難しい方には、食事の形態を考え直したり、好まれる飲み物を提供したりしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者それぞれの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。又、食塩水でのうがいにより感染予防に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄パターンの把握に努め、時間毎や希望時等にトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表をつけることにより排泄パターンを把握している。時間誘導を行ったり、動作等から把握してトイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分を摂って頂けるよう好みの飲み物を提供したり、食物繊維の入った食事メニューを取り入れている。毎日、負担にならないようストレッチ、歩行運動等を一緒に行っている。又、看護師が毎朝、排便の有無を確認し必要時には処置を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から2日に1回のペースで入浴して頂いている。拒否があった場合は清拭を行ったり、別の方に声掛けを行う等の対応をしている。	1階は2日に1回、2階は3日に1回は必ず入浴が出来るように支援をしている。拒否のある場合は声かけの工夫をしたり、家族から声かけの支援をしてもらっている。難しい場合は清拭や足浴を行い、清潔の保持が出来るように努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて居室やホールの畳上やソファ等で休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確認出来るよう薬の説明書をファイルしている。状況の変化等をチェックし、その情報を家族や主治医に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、歌、園芸、手芸等、個々に応じた役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩に出掛けている。月毎に計画を立て買い物やドライブ等に出掛け気分転換を図って頂いている。ご家族と共に外出される事もある。	買物、法人の行事、地域の行事への参加や梅・桜・ゆり・藤・ひまわり・コスモス・シクラメン見物等月1回バスハイクを行っている。気候の良い時は近所を散歩している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にショッピングに同行し希望を伺いながら品物を選び職員見守りにて支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取り次ぎを行ったり年賀状等に本人自筆にて書いて頂き、職員も書き添えている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共同スペースには季節の花を飾っている。光はスクリーンにて調節し気温や体調に応じてエアコンの調節を行っている。	食堂兼居間には、テーブルの他に畳の間があり、思いおもいに過ごせるようになっている。光は直射日光が当たらないようにスクリーンで調節されている。職員の声は穏やかで居心地良く過ごせる。訪問当日はテーブルに彼岸花が飾られていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中心となるダイニングテーブル、椅子、の他にソファを置き他に畳の間があり思いのままに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の馴染みの物、使い慣れた品物を居室に持って来て頂くようご家族に相談している。	現在は映像は映らないが馴染みのテレビやペット、布団タンス、茶碗、はし等使い慣れた物や、好みの装飾品、趣味の作品等が飾られ本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なく廊下、トイレ浴室等手すりを設置している。又、トイレや居室に迷われないよう分かりやすく貼り紙をして表示している。		